



岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

第 19 号

平成 6 年 11 月 吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町 1 番 1 号
郵便番号 8 0 6

電話 (093) 621-1898

FAX (093) 621-5330

天皇陛下御稻刈

天皇陛下には、十月二日からの御訪
欧を前に九月二十七日午後、皇居生物
学御研究所脇に設けられた水田で、今

春御親ら、お田植えされた稲をお刈り
取りあそばされた。

東京は朝から霧雨が降り続く二十七
日午後三時半過ぎ、陛下には茶色の
ジャンパーをはおられ、グレーのズボ
ンに長靴姿で稲田（作付面積二百三十
平方メートル）にお入りになった。

猛暑と水不足で稲の成長が心配され
たが、作柄は平年並。たわわに稔りと
雨つゆに漏れたモチ米のマンゲツモチ
五株、ウルチ米のニホンマサリ五株を
それぞれ六ヶ所づつ、あわせて六十株

をお刈り取りになり、残りは侍従らが
刈り取った。

天皇陛下親らの稲作作りは、昭和天
皇が初めてその新例をお開きになった
もの。今上陛下も先帝陛下の大御心を
お継ぎになり、御代替りの年から毎年
春には御親らお田植えを、秋にはお刈
り遊ばされている。また平成二年から
は、御親ら種をおまきになる行事も始
められた。

収穫された稲は、十月十七日の伊勢
の神宮の神嘗祭に根つきそのまま奉られ
るほか、宮中神嘉殿での新嘗祭にも御
手づから刈り取られた米をお供へされ
る。



お や し る の 話

神社といふことばから、私たちは何を連想するでしょうか。おそらく、すぐに鳥居、森、祭りなどという答えが返ってくるでしょう。あるいは、ふるさと、伝統などの答えがあるかもしれませんが、では一体なぜ、こんな連想をするのでしょうか。

あたりまえのことかもしれませんが、神社が神さまのいらつしやるところだからではないでしょうか。しかし、あまりあたりまえすぎて、忘れがちになるのも事実です。

神さまについての具体的な事は、第三章でくわしく説明いたしますが、ここでは神さまがおしずまりになるところが、神社であるというところをよく知っておいて下さい。このことが分かっているれば、神社にあるたぐさんの施設も、みんなそれぞれ神さまにかかわって意味のあるものだ、ということがよく分かることでしょう。

神さまがいらつしやれば、当然神さまをまつる人がいて、拝む人がいます。専門職として、毎日おつかえする人が神主さんです。神職ともいいます。

また、神社の近くに住んで、神社におまいりに来る人々がいます。この人たちを氏子といひます。毎朝おまいりする人、一日、十五日にお参りにくる

人、祭りの日だけおまいりする人、それぞれの都合によつてまちまちです。

しかし、神さまは毎日いらつしやるわけですから、常におつかえする人が必要です。ですから、神主さんは氏子の代表として、毎日おまつりをしていられるわけです。

神社を構成しているいろいろな施設は、神さまが快適にすごされること、おまいりする人がゆつくりと静かに祈りができる様に工夫されています。それでは、ごく簡単に神社の中にある施設について見て行きましょう。

まず、遠くから神社をながめてみましょう。たいていは、こんもりとした大きな森となつています。鎮守の森です。もつと近づいてみますと、鳥居があります。鳥居には、シメ縄がかかっています。これをくぐる、社殿まで長い参道が続いているでしょう。参道の両わきには、燈籠が立ち、狛犬などもあります。また、ご神札やお守りを頒けてくれる社務所、参拝する人が手や口をすすぐ手水舎があります。参道の中ごろに小さな川が流れていて、神橋がかかっている場合もあります。

いよいよ社殿に近づいてみますと、単純な一つの建物ではありません。神様のしずまる本殿があり、参拝者や祈願をする人がお祈りをする拝殿とがあります。本殿と拝殿をつなぐ位置には、

お供物などをあげておく幣殿というものがあつて、

本殿・幣殿・拝殿は、それぞれながつていて、ひとつの建物のように見えますが、空から見ると、はっきり屋根が三つに分かれていますから、そのことがよく分かります。

さて、もう一度ふり返つて境内を見わたしてみますと、まだまだたくさん建物や施設のあることに気づきます。お神楽をする神楽殿、お神輿をしまつておく神輿ぐら、小さな社(境内社)もいくつあつたようです。シメ縄のかかつた木(神木)などもあります。



神 田 神 社 (東京 都)

郷土地名考 ⑱

永犬丸(えいのまる)

エイノマルと言うが私はエノマルだろうと思う。旧遠賀郡で一時直方藩になつたことがある。金山川中流域の高燥な河岸段丘の台地。太古、洞海湾はここまで湾入していたといひ、地名は船の名に由来するといひがそうではあるまい。

南風を中国、九州ではハエと呼ぶ。北西の季節風を避けた漁船や北前船が南の風を待つたのが下関の南風泊(ハエドマリ)また長崎市の白南風(シラハエ)。筑後市の羽犬塚も秀吉が鳥津の羽犬に悩まされたといひ伝説のほか、ハインツカリハエノツカを語源とする意見がある。エイノマルは永犬丸の字訓に従つたものだが、原義はハエノマルではあるまいか。マルは中世名田につけられた所有者名、若しくは高台また城跡地名。しかしこの台地に南風が吹き、草木の芽吹きがいつせいにはじまると村々に春が訪れるのだ。そのほうが詩がある。元は南風の丸、転化してエノマル、当て字をして永犬丸とこうなる。いまはキンキラした新興住宅地。

神社 なぜ 問答

(その18)



問 お正月のお供への餅の上に橙だいだいをのせ、下に裏白うしろしろを敷く理由・起源等をお教え下さい。

答 お正月のお飾りと言えば、まづ松、竹、梅が思い浮びます。門松に欠くことのできないものです。門松は元来歳神さまを迎える神籠かみかごです。なかでも松が最も大事なものとされてきました。

次に注連飾りがあります。新しい藁で様々な形に造ります。これは歳神さまを祀っている清らかな場所を示すものです。これに裏白、橙、ゆづり葉などをつける場合があります。

鏡餅のお重ねの上にも橙を置き、ゆづり葉を飾り、裏白を下に敷きます。この理由と起源は、とのお尋ねです。まづ鏡餅は、歳神さまへの御供です。これを重ねて供えるのは、歳を重ねる

という意があるでしょう。

裏白は、常緑で冬でも青々としています。シダとも言いいますが、「齒(齡)垂る」にかけて長寿の意味をもたせ縁起物として用いられたものです。

橙は、こぶし大の柑橘類ですが、大変色あいの美しいものです。これも常緑樹で、果実は落果しにくく、新旧代々の実が同一樹になることからこの名があります。

次にゆづり葉ですが、庭先などでよく見かける樹木です。この葉は肉厚で深緑色の光沢のある美しいもので、葉の寿命が二年にわたり、初夏に新葉が出る。と一年葉、二年葉が階をなし、秋に二年葉が落葉します。新しい葉が伸びてから古い葉が落ちるところから「ゆづり葉」と呼ばれています。子孫が絶えることなく代々継承されて行くことを願う心がここにあります。

こうしてみると、いづれも常緑で常磐のいのちの栄えを言寿ぐとともに、子孫が益々発展繁昌するようにとの切なる祈りが、これらのお飾りの中にはこめられていることが分かります。



岡田宮と厄除

やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、一九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、人生の折り返し目だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りのある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。

それが「厄ばらい」です。

厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをうけましょう。北九州の古社である岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。

皆様方おそろいで御参拝下さいませ。様御案内申し上げます。

平成七年の厄年

厄年(男)		厄年(女)	
二十四才 前厄	昭和四十七年生	十八才 前厄	昭和五十三年生
二十五才 大厄	四十六年生	十九才 大厄	五十二年生
二十六才 後厄	四十五年生	二十才 後厄	五十一年生
四十一才 前厄	三十年生	三十二才 前厄	三十九年生
四十二才 大厄	二十九年生	三十三才 大厄	三十八年生
四十三才 後厄	二十八年生	三十四才 後厄	三十七年生
六十才 前厄	十一年生	三十六才 前厄	三十五年生
六十一才 大厄	十年生	三十七才 大厄	三十四年生
六十二才 後厄	九年生	三十八才 後厄	三十三年生

●厄年大祭 二月節分日

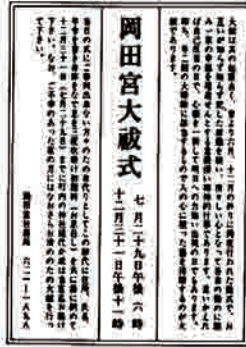
※年齢はかぞえ年です。

年末年始の行事案内

●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)を共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。



(表) 代ろ
形かた

●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願ひする神事、午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。

●開運福引き 一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。
一等は自転車、羽毛ぶとんなどが当たります。新年の運だめしにどうぞ。

●昨年の一等

- 京良城町 道藤 文雄様
- 桃園町 明石南風雄様
- 幸神町 匿名
- 匿名
- 匿名
- 匿名

●特別祈願祭 一月一日〜七日

新しい年を迎え、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

●どんど焼祭 一月十五日

古くなったメ縄、門松等を焼納する神事。

地元有志による餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

平成七年 算賀の年祝

日本国には古い時代から人の寿命を加へゆく年の区切区切を慶び祝う風習があります。

この祝いを年賀とも算賀ともいいます。

どうぞご家族そろって岡田宮にご参拝され、今までの無事息災を神様に感謝すると共に更に向後の長寿安泰をお祈り下さい。

※日取は誕生日又は早めにされて下さい。

還暦	六十一才	昭和	十年生
古希	七十才	大正	十五年生
喜寿	七十七才	大正	八年生
傘寿	八十才	大正	五年生
米寿	八十八才	明治四十二年	生
卒寿	九十才	明治三十九年	生
白寿	九十九才	明治三十二年	年生

※年齢はかぞえ年です。

編集

後記



●十二月三十一日午後十一時より半年間の罪穢を祓う大祓式を行ないます。どなたでも参列自由です。参列された方々には大祓詞をさし上げますので是非ご参加下さい。

又、平成六年一月一日より三日まで一本五百円の開運福引を行なったところ、大好評でしたので、平成七年は景品をもっと豪華にして行ないますので、たのしんで福引をして下さい。

●好評の「神社なぜなぜ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

●平成七年度の岡田神社崇敬会の申し込みを受け付けています。

●ご入会いただいた方々の一年間の家内安全、繁栄等を毎朝ご祈願いたします。多くの方々のご入会をお待ちしております。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。

●一日、十五日には神社にお参りしましょう。